



## 学びの場としての飯田

### 西澤ゼミのフィールドワークの経験から

学輪IIDA 平成25年度全体会  
2014年 1月 25日

法政大学経済学部  
西澤 栄一郎

## 飯田市と法政大学との関わり

### ■教育

- 人間環境学部：毎年8月にフィールドスタディを2000年から飯田で実施
- 国際文化学部：SJ(スタディ・ジャパン)国内研修を飯田で実施  
学部資料室に「飯田・下伊那文庫」を開設
- キャリアデザイン学部：過去にインターンシップを飯田で実施、昨年9月に酒井ゼミが京都外国語大学のゼミと共同で調査
- 経済学部：西澤ゼミがフィールドワークを飯田で実施

### ■調査・研究

- おひさま進歩エネルギー株式会社が法政大学「第9回イノベティブ・ポリシー賞」に(2011.11)
- 多数の教員が調査・視察に飯田市を訪問

## 経済学部 西澤ゼミ(演習)

ゼミのテーマ: 現地調査による環境問題の分析  
フィールドワークが活動の中心

前期: フィールドワークの準備

8月: フィールドワーク

後期: 報告書の作成、報告・発表会

フィールドワーク参加学生: 2年生と3年生 各10~12名

これまでの調査地: 名古屋、琵琶湖、葛巻町、釧路湿原、草津

調査地と調査テーマは学生が提案し、話し合いで選定

## 飯田での活動と調査テーマ

8月に現地調査、翌2月or 3月に現地報告会  
地域貢献を目標に、提案型の活動を目指す

2008年: ワーキングホリデー (飯田型援農制度)

参加者は農家に宿泊、農作業を行う 農家は宿泊場所と食事を提供

2009年: 環境モデル都市 2050年に温室効果ガス70%削減が目標

2010・11年: 野生鳥獣害 聞き取りと農家組合アンケート・草刈り体験

2012年: 小水力発電を活かした地域振興

上村程野、小沢川での事業化の検討

2013年: 竹林の整備と竹資源の利活用

整備作業ボランティアの提案



過去の報告書

## 2008年：ワーキングホリデー

20人の学生が農家9戸に分かれて宿泊(3泊4日)

果樹、花卉、酪農などの作業を体験

その後、他のワーキングホリデー実施農家20戸とターン就農者4人に聞き取り

(ワーキングホリデーのねらいは農繁期等の短期的な労働力確保と農業体験の提供による新規就農者増)



市役所で市長の講演、農業課での聞き取り



制度の成功要因と今後の課題を分析し、改善への提案を行った

卒業後、このときの3年生1名が緑のふるさと協力隊に参加、2年生2名が地元の農協に就職

## 2009年：環境モデル都市

調査内容：太陽光発電、森林資源、家庭での省エネ、バイオ燃料  
聞き取り調査の訪問先

飯田市役所、下水処理場、堆肥センター、かぐらの湯、信南交通  
飯伊森林組合、おひさま進歩エネルギー、グリーンクラブい〜だ

質問紙調査 10月に1,000世帯に郵送  
返信398 有効回答355  
省エネの取り組みについてアンケート



**環境政策で市に提言**  
飯田 法大生の調査結果

先進的な環境政策をな地域づくりのための学ぼうと、飯田市で「現状と課題を講演。市イールドワークを行った法大経済学部の話もあり、学生の役所で職員らに研究成に答えた。

この後、企画課、環境課の職員も参加して光朗市長が「人材の意見交換。学生らは太陽光、森林、二酸化炭素、交通の四分野で飯田市の環境政策を分析。職員も若者の意見を指して」と題し、市の概要のほか、持続可能な

を行政に生かそうと、熱心に発表を聴いた。若者文化、活動を活発にし、地域の人材育成を図るため、飯田市は現在、「飯田版イールドワーク」と名付けて地域間の大学連携強化に力を入れている。二十七日からは和歌山大、東京農工大が飯田入りして、フィールドワークを行う。  
(山口登史)

## 2010年:野生鳥獣害

前年の林務課での聞き取り「シカの被害が深刻」

聞き取り調査の訪問先

飯田市役所、県下伊那地方事務所

飯伊森林組合、飯伊連合猟友会

2集落で聞き取りと質問紙調査

北方入野(伊賀良) 回答18 (農家数19 土地持ち非農家6)

八重河内(南信濃) 回答21 (112世帯)

飯田市内の全農家組合(497)に調査票を配布(9月)

回答数184 (回答率37%)

被害状況と対策について質問



## 2011年:野生鳥獣害

被害の多かった八重河内に絞り、引き続き調査

集落調査:37戸に聞き取り

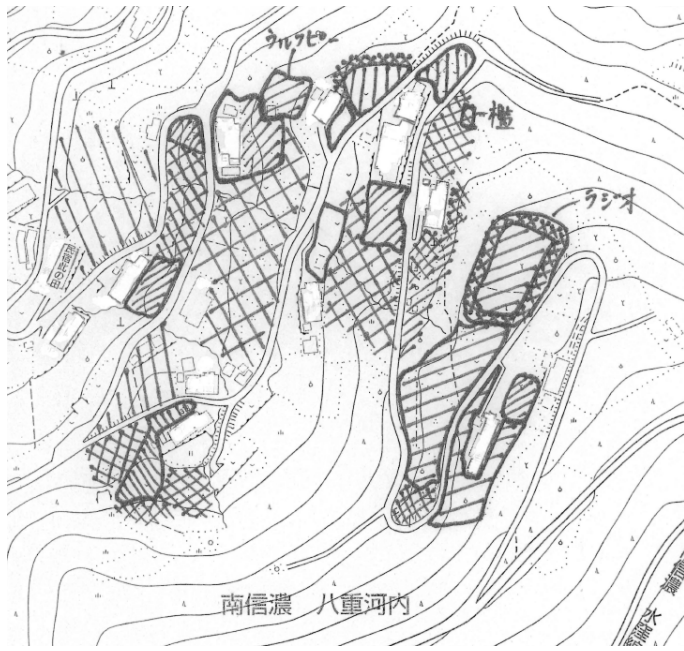
実地調査→農地と対策の状況を地図化

問題点の抽出→対策にボランティア利用等を提案

被害対策作業(草刈り、電気柵の補修など)の体験

集落での意見交換会 定住人口増加の方策を聞かれる





集落の農地と獣害対策の状況

凡例

- ・・・防除柵
- ×××・・・緩衝帯
- //////・・・畑
- ※・・・耕作放棄地

# 鳥獣被害現場で調査

## 法政大生飯田で作業体験

野生動物による農業被害を学ぶをほうと、法政大の学生が飯田市南信濃を訪れている。学生らは二十六日、聞き取り調査などの研究結果をもとに、市職員と意見交換をした。  
(木下直哉)

### 市職員と意見交換も

訪れているのは法大1クを先行し、鳥獣被害経済学部の一、二年生の原因や対策方法の研究十八人。同学部西沢栄 究を重ねた。一部教授のゼミに所属 意見交換会に臨んだし、経済活動と環境 学生らは、鳥獣被害対策の関係を学んでいる。策について「過疎地の同市への訪問は四年 ため 人を集めることが一番の課題」と指目。二十三日から四日五 摘。「ボランティアを日の日程で南信濃八重河内、作業を通じて地河内地区に滞在。草刈 域の魅力を感してもらい、橋の補修など被害 い地域の活性化につながる。橋の補修など被害 い地域の活性化につながる。対策の作業体験や、地 けるのはどうか」と市元住民への聞き取り調 農業課や林務課の職員 査などのフィールドワ に提案した。



三年高橋広大さんて「これは「大学での学習た」と聞き取り調査や市の 研究は今後も続き、意見にギャップがあ 今冬に研究内容をまとり、あらためて難しい めて市に報告する。 問題と実感した。大学に戻っても研究を続け、結果を地域に役立てたい」と話している。

## 2012年:小水力発電

### 建設予定地の見学

### 発電による収益の試算とその用途の検討

### 上村の住民11名への聞き取り

### 地域活性化への要望

### →イベント開催などを提案



飯田で学ぶ小水力発電  
上村地区で法政大ゼミ生ら



飯田市上村での小水力発電計画について、市職員(右)の説明を聞く法政大の学生ら



## 2013年:竹林の整備と竹資源の利活用

### 竹林整備・竹炭製造のNPOへの聞き取り

### 竹林所有者7名への聞き取り、竹林整備体験

### 竹の利用によるCO<sub>2</sub>削減効果と費用の試算

### 竹林整備ボランティアと地域通貨を提案

## 学びの場としての飯田:さまざまな強み

- 調査の受け入れ体制が充実:市役所・各種機関・集落・農家  
相手先との関係は点的であるのが普通(ex.市役所に1回聞き取り)  
飯田では関連するところへの連絡がうまくいく
- 環境先進都市
  - ・先進的な環境政策:環境モデル都市、太陽光、小水力…
  - ・市民の高い意識:アンケートへの高い回答率
  - ・企業の積極的な取り組み:LED防犯灯、マイクロ水力発電機…
- 人材の宝庫  
2013年のテーマは竹→竹炭製造の達人、竹林整備のNPO
- 学生の感じた遠山郷の魅力(2011年度の報告書から)  
「食の魅力、土地の魅力、催し物の魅力、そして、人の魅力」

## おわりに代えて:ゼミの課題

- 地域貢献の実現  
学生は地域の人々の役に立てるか?
- 継続的な関与と継続的な関係の構築  
一回だけならただのお客さん 1人のゼミ生の活動はせいぜい2年  
現在は年2回の訪問→費用と時間の問題
- 地域のニーズの把握  
聞かれてすぐ答えられるのか? 学生が取り組める問題か?
- 理想は参加型研究・参加型調査  
地域の人々と学生が協働してイノベーションを起こす